

春（新し）

大橋千佳子

越冬の黒豆さやを弾け飛ぶ健やかなるはより遠くへと

二十年日当たり悪き庭に生おう南高の咲く吾を恨むごと

なんとまあ「製図を教えてください」と進級前の笑顔の君よ

早春の祖父との別れ語りつつ彼はスプリングコート地を裁つ

自分では決めないと決め生きてきた我に生徒は悩みを語る

眼科医の点眼薬をお守りに春の山路に黄の花探す

尻尾青きトカゲに迫る蛇がいて日向忌々いまじまし網戸を閉める

薫風を郵便バイク走り来るまずお隣のポストで降りて

「コシアブラ」「しおで」「タラの芽」名を知れば山は景色の額がくより迫る

漸くに味覚が歳に追いついてコシアブラにも春をいただく